

東京の高校改革

教育の在り方に関するヒアリング

- 2010年12月16日、文部科学省

専修大学附属高校 鈴木高弘

都立高校、専門学校などを経て現職

生徒の躍動



1, 足立新田高校再建から

- 廃校予定から一転、再生へ

中退者が入学者の約半数
推薦でも定員割れ
成り立たない教育活動
意欲のない教員集団

教員人生最大の転機 平成9年11月

2 , 生徒を取り巻く環境

- 偏差値で選別され最底辺に位置
- 体力・気力・知力、困難な経済的事情
- 放任でわがまま放題に行動
- 表層的な流行に流される カラーリング・携帯・アルバイト・異性交遊・暴走

「64万足立区」の教育の状況を反映

3 , 都立高等学校・足立新田の実態

- 普通科 硬直的で魅力のないカリキュラム
- 職業科 時代に対応できない内容
- 教 員 教員の、教員による、教員のための学校
国旗・国歌問題で足かせ

足立新田の健闘

硬式野球部



4,そして足立新田は...

- 学校からのドロップアウトが激増

50%を超える退学率と超えるフリーター率

- 3年間でほぼ半数が退学、卒業生の大半が進路未決定。
- 社会の底辺に滞留して大量のフリーターを輩出。

ソウル姉妹校と交流



5、学校再生への諸条件

教育資源を発掘し活用する。
学校の周囲を見直す(コラボレーション)
施設・立地・住民・自然環境・
自校の条件を生かし切る。
学校予算を再点検・
教員の特技や能力の活用・
都教委との関係改善を。
管理・対立から自律・協働の立場に
教員の協働体制が大前提

6、学校理解への取り組み

- 中学校訪問で学校をアピール
- 校内美化の徹底、快適な学習環境を準備
- ホームヘルパー養成事業などで付加価値
- 体験入学と学校説明会
 - 体験入学(計2回)・学校説明会(計4回)
 - 学区説明会・都立全体説明会(計2回)
 - 学校説明会は元旦・直前・後期など(計4回)

教師は、労を惜しまず、なりふり構わず

教育実習生



7, 入学者倍率の推移等

(入選倍率)

年度	推薦応募倍率			第一次募集受検倍率			備考
	男子	女子	計	男子	女子	計	
6	未実施		—	0.99	0.87	0.93	第二次募集実施
7	0.91	1.24	1.07	0.95	1.16	1.05	第二次募集実施
8	0.97	1.75	1.23	0.86	1.26	1.04	第二次募集実施
9	0.83	1.75	1.25	1.13	1.19	1.16	
10	1.83	1.93	1.88	0.93	1.10	1.01	分割募集(A)
11	2.17	4.19	3.14	1.47	2.11	1.78	分割募集(A)
12	1.96	5.33	3.57	1.22	2.14	1.66	分割募集(A)
13	2.97	5.81	4.29	1.13	1.94	1.52	分割募集(前期)
14	3.08	7.19	5.00	1.24	2.37	1.80	分割募集(前期)

古文書を読む



8 , 中途退学 (1 1 年度が改革一期生)

年度生	入学者数	中退者数 (%)	卒業者数 (%)	
6	236	120 (50.8)	116 (49.2)	
7	240	119 (49.6)	121 (50.4)	
8	237	92 (38.8)	145 (61.2)	
9	238	110 (46.2)	128 (53.8)	
10	244	95 (38.9)	149 (61.1)	
11	249	92 (36.9)	157 (63.1)	
12	246	45 (18.3)	201 (81.7)	
13	252	30 (11.9)	222 (88.1)	在籍
14	252	9 (3.6)	243 (96.4)	在籍
15	254	0	254	在籍

9, 改革は継続が課題

改革二期目が安定して進行 三期目へ
特色化の推進(都の指定)、主幹制
野球部、相撲部、陸上部、バレー部
進学実績の向上(四大進学)
生徒を退学させない、居場所のある学校
柔軟なカリキュラムと魅力ある授業

10. 都立高校の改革計画

- 平成9年、改革第一次計画策定～12年
- 平成11年、第二次計画策定～14年
- 平成13年、都民調査と検討委員会設置
- 平成15年、新実施計画策定

15年～18年(継続)～23年

統廃合促進、重点支援校指定

11, 改革の内容

- 新しいタイプの高校

中高一貫教育校(中等教育学校、併設型)産業高校、総合芸術高校、トライネット
スクール

- 昼夜間定時制高校(三部制独立校)

総合学科高校 全日制 10校

改革が多岐に亘り、しかも性急な印象を受けて、多くの教員が困惑している。

募金活動をする



12, 都教委指定の重点校

- 進学指導重点校 4校 7校 12校
日比谷・戸山・西・八王子東・青山・立川・
国立 ・小山台・駒場・新宿・町田・国分寺
- エンカレッジ・スクール 2校
足立東 秋留台

有名都立高校の復活を期待して重点的な支援を行い、旧帝大、早慶マーチといった有名大学への合格者増を数値目標で示させている。

13, 学校経営の改革(全都立)

- 平成15年度から相次いで実施
 1. 経営計画の策定
 2. バランスシートの作成
 3. 経営の重点支援の実施
 4. 校長裁量権の拡大
 5. 主幹制度の導入。教頭は副校長とする

14 . まとめ (1)

- 生徒が目的を持って学習することで、学校への定着度が高まり、結果的に中途退学・フリーター輩出の予防効果がある。
- 学校改革にはエネルギーが必要、先生の負担も増加。特に柔軟なカリキュラムがもたらす複雑な授業展開が改革のブレーキになりつつある。
- 教員の意識改革がなされなければ、結局は改革は頓挫、結局、生徒が被害者となり続ける。

15,まとめ(2)

2006年 4782校 校長意識調査

- 20年前に比べて、社会の学校への支持や理解が悪くなった。 中 73% 小 69%
- 家庭教育力が低下した。
中 89% 小 91%

教員の意識調査

- 処遇と結びついた教員評価は
 - 「プラスの影響」 26%
 - 「マイナスの影響」 63%
- 結果を恐れてはいけない!

校長室訪問

